

5.発生時の対応

5-1.ゾーニング

ゾーニング 感染対策における

清潔な区域（清潔区域）とウイルスや細菌などによって汚染されている区域（汚染区域）を区分けすることを「ゾーニング」といいます

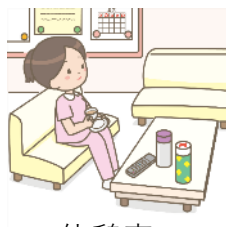
感染した入所者は汚染区域でのみ生活し、汚染区域に入る職員は、必要な防護具を着用します



個人防護具装着エリア



スタッフステーション



休憩室



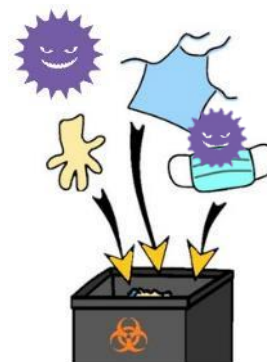
未使用個人防護具
の保管

グリーンエリア

ウイルスは存在しないエリア



個人防護具除去エリア



使用後の
個人防護具保管

イエローエリア

ウイルスが存在する可能性の
あるエリア



常時個人防護具装着



レッドエリア

ウイルスが存在するエリア

エリアに応じた 個人防護具

宿泊療養施設で行った個人防護具の選択

レッドエリア



ウイルスいる

標準予防策
接触・飛沫・空気

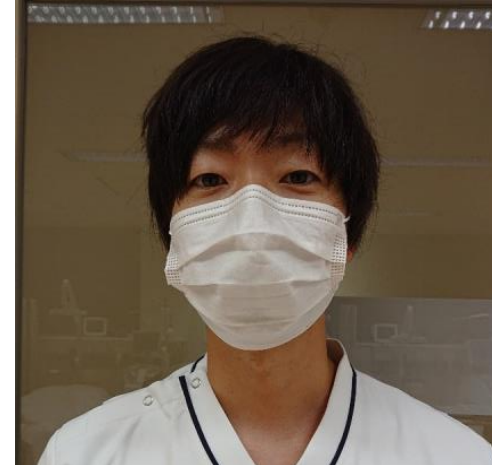
イエローエリア



ウイルスいるかも

標準予防策
接触・飛沫

グリーンエリア



ウイルスいない

標準予防策

汚染

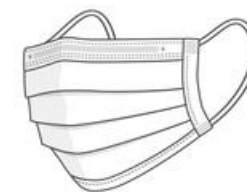
清潔

標準予防策に、感染リスクを考慮して
経路別予防策（接触・飛沫・空気）を追加する

グリーンエリア

- 通常業務を実施する場所などが対象
- 必要な個人防護具 サージカルマスク

隙間なく装着する



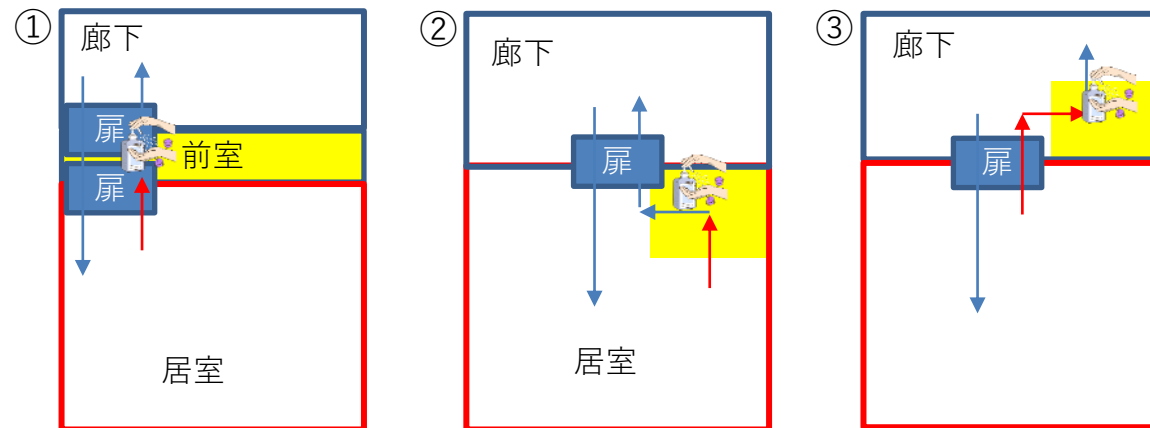
※注意事項

- イエローエリアからグリーンエリアに戻る場合は手指衛生を徹底する
- 再利用する個人防護具がある場合（N95マスクなど）は、通気性の良い袋などに入れ管理する
- 入所者に使用した医療機器（SPO2モニターなど）は、湿式消毒後にグリーンエリアで管理する
- 感染性廃棄物の容器は、袋などに入れ管理する
- 必要な個人防護具を保管する

イエローエリア

(レッドとグリーンの間エリア)

- 入所者に使用した個人防護具を脱衣する場所
 - ① 前室をイエローエリアとする
 - ② 前室がない場合は、居室内にイエローエリアを設置する
 - ③ 居室が狭い、精神疾患・認知症患者など居室内・脱衣が出来ない場合は、廊下などにイエローエリアを設置する



※注意事項

- 感染性廃棄物容器を設置する
- 脱衣手技が記載されたポスター等を設置する

レッドエリア

- 感染者が居住している部屋や退室直後の居室などが対象
- 必要な個人防護具
ガウン 手袋 フェイスシールド キャップ
サージカルマスク N95マスク（必要時）



※注意事項

レッドエリア入室中は、できる限り個人防護具を脱がない
手袋については、2重にすると交換できます

【エアロゾルによる感染の可能性がある場合】

- N95マスクを装着する
- 陰圧または高換気な状態にすることが理想

ゾーニングの 基本パターン

各居室を汚染区域、居室外を清潔区域とするのが基本パターン (感染者を居室で隔離可能な場合)

- ① 清潔区域で个人防护具を装着する
- ② 居室の中に脱衣場所（イエローエリア）を設置する
- ③ イエローエリア内で个人防护具を脱衣する

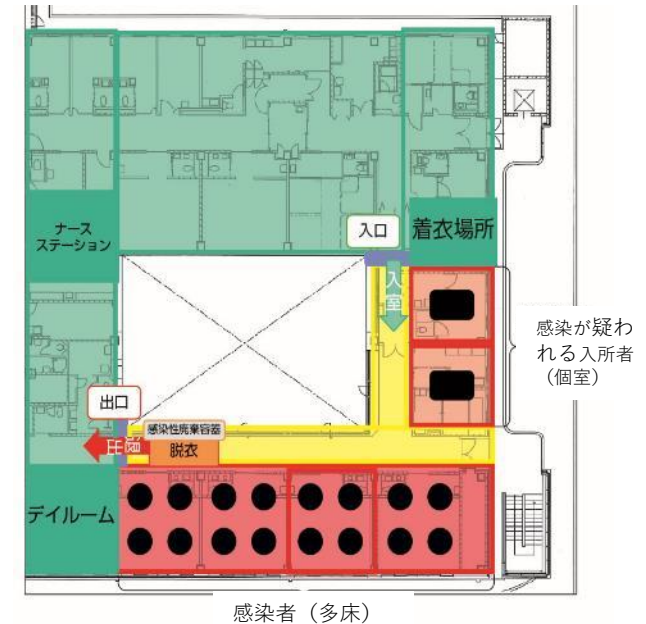


※注意事項

- 床にビニールテープを貼ってエリアがわかるように工夫する
- 入所者の頭部から脱衣エリアは1m以上離すことが望ましい
- 脱衣エリアをつい立てなどで覆う必要はないが上記2項目が難しい場合は用意する
- マスクは居室から出て外す

フロアの大部分を汚染区域と設定した例 (感染者が多数で個室での隔離が困難な場合)

- ① 清潔区域で個人防護具を装着する
- ② 廊下に脱衣場所（イエローエリア）を設置する
- ③ 廊下で個人防護具を脱衣しグリーンエリアに戻る
- ④ 感染が疑われる入所者や濃厚接触者は個人防護具を必ず交換する



※注意事項

- 感染が疑われる入所者と感染者は必ず分けて隔離する
- フロアの一部を感染者専用にする場合は、つい立てなどで分けし、ビニールテープでエリアがわかるようにする
- 動線は基本1方向で入口と出口は別に設ける
- 入所者には居室から出ないよう協力を得る

通所サービスにおける ゾーニング

- ① 利用者と感染が疑われる利用者（発熱など）の動線を分ける
- ② 発熱のある利用者ができるだけ周囲の環境に接触しないようにスムーズに個室に案内する
- ③ 廊下で個人防護具を着用し発熱のある利用者の対応・処置を行う
- ④ 処置終了後は廊下の一部に脱衣場所（イエローエリア）を設置し、脱衣する

※注意事項

- 脱衣場所とグリーンエリアはつい立てを使用するか、ビニールテープを貼ってエリアがわかるように工夫する
- 利用者と発熱のある利用者は、時間・空間をわけることを意識する

感染者が疑われる入所者・利用者 が検査に行く場合

- ① 可能な限り、一般入所者や利用者とは交差しない動線と時間帯を考慮する
- ② できる限り、感染が疑われる入所者や利用者にはサージカルマスクを着用してもらう
- ③ エレベーターや移動中に、職員や一般入所者や利用者とは接触することがないように配慮する
- ④ 環境汚染を出来る限り少なくするために、車いすやストレッチャーで移動する
- ⑤ 環境が汚染された場合には、環境整備を行う



入所者・利用者は、サージカルマスクを着用する



【介助者の個人防護具】

- ・サージカルマスク
- ・N95マスク (必要時)
- ・フェイスシールド
- ・キャップ
- ・手袋
- ・ガウン

感染者を確認した場合の ゾーニングの特徴

- ① 感染者が発生してからゾーニングを設定するため全体像がみえない状況で判断せざるをえない
- ② すでに広く汚染されている可能性がある
- ③ 多数の感染者が一つのフロアで発生した場合、感染対策に不利な構造であってもそのフロアを感染者用フロアとせざるをえない

ゾーニングを決定する 場合に考慮するポイント

- ① 個人防護具を着用していない職員が曝露を受けたり、清潔区域に汚染が生じたりしないよう動線を設定する
- ② 廃棄物の搬出動線と清潔物品や食事の搬入動線を確認
(できるだけ交差しないよう設定する)
- ③ 廃棄物や医療機器等を汚染区域から搬出する際に清潔区域を通過する場合は、搬出経路を汚染しないよう対応を講じる
(例：ワゴンに載せる、ビニール袋に入れる、汚染区域内で消毒する)

ゾーニングを決定する 場合に考慮するポイント

- ④ 汚染区域内では職員が行動しやすいよう余裕のあるスペースを確保する
- ⑤ N95 マスクなど個人防護具を再利用する場合は交差汚染を防ぎながら保管できる場所を確保する
- ⑥ 使用する予定のない器材やベッド、医薬品等は汚染区域外に移動しておく
- ⑦ 区域の境界が明確になるように設定する衝立で境を示したり、テープを用いて境界を示したりするとわかりやすい

ゾーニング後に 確認すること

<input type="checkbox"/>	清潔区域と汚染区域を明確に区別して運用されているか
<input type="checkbox"/>	手指衛生や個人防護具の着脱など、 基本的な感染対策の手技が確実に行われているか
<input type="checkbox"/>	個人防護具の着用場所と脱衣場所が交差あるいは 隣接することで交差汚染をきたす危険がないか
<input type="checkbox"/>	高頻度接触面を中心に頻回の消毒が行われているか
<input type="checkbox"/>	感染者と非感染者が共用する医療機器を 汚染区域で使用した場合に、消毒が確実に行われているか

濃厚接触者への対応 感染が疑われる入所者

- ① 居室を感染者と明確に分ける
(感染の潜伏期間である可能性があるため)
- ② 担当者を分けたりケアの順番を考慮したりする
- ③ 利用者同士が互いに接触しないよう配慮する
- ④ 複数の利用者を担当する際には、可能な限り個人防護具を交換し、手指衛生を厳守する